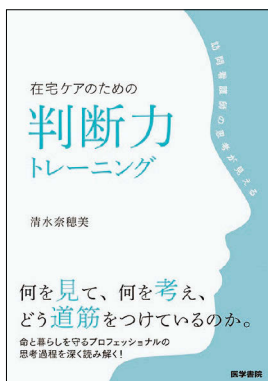


今月の3冊 プラス +1



在宅ケアのための判断力トレーニング 訪問看護師の思考が見える

著：清水奈穂美
発行：医学書院
定価：2200 円（本体 2000 円＋税 10%）

在宅医療の複雑な状況下で、訪問看護師は何を見て、何を考え、どう道筋をつけているのか。そしてその結果どう動き、何に備えるのか。最前線で命と暮らしを守る訪問看護師の思考プロセス、最善策を導く意思決定を共有する過程を読み解きながら、現場で求められる判断力を鍛えることができる一冊。



基礎からの看護保健統計学 データの基本から多変量解析まで

著：松本秀明、須藤真由美、松本勇樹
発行：東京図書
定価：2640 円（本体 2400 円＋税 10%）

IT 技術の進歩と普及によりデータが数値化され、医療を実践する上でも統計の知識と技術は必要不可欠。また、看護学生の卒業研究や看護研究（量的研究）においても統計学の基礎知識は欠かせない。基本的な統計から多変量解析の基礎までカバー、各章末で理解度をチェックしながら活用できるテキスト。



あなたはどこで死にたいですか？ 認知症でも自分らしく生きられる社会へ

編：小島美里
発行：岩波書店
定価：2310 円（本体 2100 円＋税 10%）

メディアで介護の現状を紹介し、警鐘を鳴らし続けてきた介護 NPO 代表の提言。高齢になり、認知症になったときに望ましい最期とはどのようなものか。どうすれば認知症になっても安心して生き、最期の日を迎えられるか。そのために必要なサービス、費用、そして介護保険制度の限界とこれからを考える。



コロナ禍で障害のある子をもつ親たちが 体験していること

著：児玉真美 発行：生活書院
定価：1980 円（本体 1800 円＋税 10%）

コロナ禍で急変した不自由な生活の中、障害のある子を持つ親たちは、日頃増して多大な負担を抱え、心身のストレスに押しつぶされ、万一の不安におびやかされてきた。当事者や家族が見えない存在として社会から置き去りにされないために、7 人の親たちが自らの体験を語った。